

ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、展示や教育プログラムの実施だけでなく、高い専門知識を有する研究員による、世界レベルの調査研究活動を行います。このコーナーでは、インタビューを通じて研究員の仕事や、その素顔を紹介していきます。



准教授

すが わら だい すけ
菅原 大助

1974年岩手県生まれ。東北大学大学院理学研究科地学専攻で博士課程を修了した後、同大学災害科学国際研究所などで研究業務に従事。2016年1月に着任。専門は地質学。地質調査やコンピューターシミュレーション等の手法を使い、先史～歴史時代の津波の発生履歴や津波による海岸地形の変化についての研究に取り組んでいる。

『津波の調査・解析一筋20年』

Q.菅原准教授の研究内容についてお話しください。

A.地震・津波災害の予測や低減を目的に、海岸地域に残された巨大津波の痕跡「津波堆積物」の発掘・分析や、全体像を復元するためのコンピューターシミュレーションによる解析を行っています。大学4年の卒業研究で、安政東海地震の津波による海岸地形の変化について伊豆半島の南部を調査したのが始まりです。最近では主に東北地方、特に東日本大震災に関係する調査・研究に力を入れてきました。

Q.2月に開催した国際シンポジウムでは中心的な役割を果たしていましたが、印象深かったことは何ですか？

A.新しく提唱されている地質時代区分「Anthropocene（人類世）」をテーマとして国内外から多くの専門家が集まり、議論を深められたことです。このシンポジウムでは、人が地球環境をどのように変えてきたかを振り返りました。「人類世」の言葉は、ご参加頂いた皆様には初めて耳にする言葉だったと思いますが、文系・理系のそれぞれの見方による考察は聞き応えがあったようで、お陰様で好評を頂くことができました。

Q.菅原さんは調査研究だけでなく、「石のリース作り」や「ソフトなロックでペンダント」など館内講座を積極的に開催していますがその狙いは何ですか？

A.一見地味な石も、物によっては100万年以上の時を経て私たちの足元に存在しています。ご来館頂いた方々に、石が持っている歴史や、石そのものにも興味をお持ち頂けるよう、ミュージアムの皆様からアイディアとご協力を頂きながら、なるべく馴染みやすい内容の講座を開催してきました。これからも、面白くするためのイベントを開いていきたいと思っています。

地震・津波という、静岡県のみならずわが国でヒトが生きていく上で避けられない自然災害を研究対象とする菅原准教授。淡々とした語り口の中、ふと挟みこまれるシニカルなユーモアも魅力的です。

次回から、リレーインタビュー新シリーズ「ミュージアムを支える人々」がはじまります。

アクセス

〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧 静岡南高校)

🚗 自家用車でお越しの場合(ナビでお越しの際は、住所で検索してください)

- ・ 東名高速道路静岡ICから15分
- ・ JR静岡駅から20分
- ・ 駐車場 無料(200台)

🚏 公共交通機関でお越しの場合

- ・ 静岡駅北口バスターミナル
- [8-B乗り場から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(約30分)終点下車]

ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

発行：ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

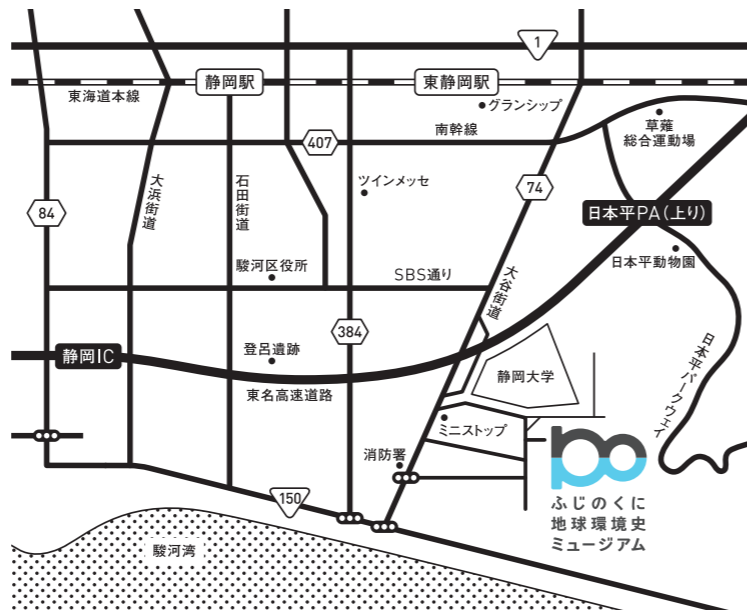
[TEL] 054-260-7111 [FAX] 054-238-5870

[E-mail] info@fujimu100.jp

[ホームページ] www.fujimu100.jp

🐦 https://twitter.com/fujinokuni_NEM

📘 https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum



百年後の静岡が豊かであるために

NEWS LETTER



ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

□開館1周年を迎えて □ミュージアムGWイベント □ミュージアムダイアリー □研究者リレーインタビュー

[vol.006]



2016年度ミュージアム職員一同(2017.3.8)

開館1周年を迎えて

2017年3月26日に我がミュージアムも無事開館1周年を迎えることが出来ました。この一年間で8万5千人以上の皆様に来館していただき厚く御礼申し上げます。このミュージアムは、県立美術館の半分程度の職員数の中で、なおかつ、前例もない中で、職員は、泣き言も弱音も吐かず、中には家庭をもちえりみず、来館者に満足していただきたい一心で頑張ってきました。個人的には、Facebookにミュージアムのイベントなどをアップすると、沢山の「いいね」をしていただけるんですが、実際に来館される友達が少なく愕然としていました。そんな中でも、地元磐田でのワークショップやイベントに積極的に参加してミュージアムをPRする事により、そこで知り合った方々が少しずつですが来館してくれるようになり、そんな方々とミュージアムでお会いできるのが楽しくてたまりません。そして「素晴らしい博物館ですね、もっと早く来ればよかった」と言っていたのが至福の喜びとなっています。

至福の喜びと言えば、未利用となった高校をリノベーションして出来たこのミュージアムが、世界最大規模の空間デザインアワード「DSA日本空間デザイン賞」にて、最高賞である大賞に選定された日のことも忘れられません。大きな驚きと喜びとともに、このミュージアムの展示とコンセプトが、決して間違っていなかったのだという自信と確信が生まれました。

ところで、ミュージアムの来館者数は約8万5千人ですが、移動ミュージアム(ミュージアムキャラバン)では、60万人以上の皆様に観ていただいています。平日はどうしても来館者が少ないため、特に学校団体の皆様に沢山利用していただくような広報と営業活動を積極的に実施していきたいと考えております。1年目は試行錯誤の連続でしたが、2年目はしっかり腰を据えて運営していきたいと考えております。通常、全国どの博物館や美術館でも、経年と共に来館者数が減っていく傾向となっております。しかし我々のミュージアムは、年々来館者が増えていくような、魅力あるミュージアム作りに取り組んでいかなくてはならないと肝に銘じております。2年目を迎える「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を、何卒よろしくお願ひ致します。

副館長 大場 悟